

令和4年度 学校評価報告書

丹波篠山市立八上小学校
校長 小田 環

1 学校教育目標等

豊かな心を育み 自ら学び たくましく生きる 児童の育成

2 今年度の重点目標

- (1) 児童が主体的に学ぶ授業づくりを進め、自己学習力をつける。
- (2) 児童が持っている良さや可能性を引き出し、望ましい生活習慣の定着を図る。
- (3) 「生きる力」の核となる豊かな人間性を育てるため、人権教育・道徳教育・特別支援教育を推進する。
- (4) 保護者・地域との連携を深め、ふるさと「八上」に根ざした「地域とともにある学校づくり」を探究する。

3 学校自己評価結果

(達成状況・・ A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

| 分野 | 評価項目 | 達成状況 | 取組状況・改善方策 |
|------|---|------|---|
| 学習指導 | 話し合う活動を計画的にとりいれるなど学習形態を工夫し、子どもたちが考えを深めたり広げたりする授業を行っている。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・教師は授業の中に話し合いを設定し、児童が考えを伝えたり友だちの考えを聞いたりできている。しかし、児童が自分たちの考えを深めるところまでは至っていない。 ☆子どもたちの意見が深まる話し合いの仕方を研修する必要がある。一問一答になりがちなのではないか。→探究学習、深い学び |
| | 授業において、児童が「めあて」や「ふりかえり」を意識して取り組めるようにしている。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・教師は、児童にめあてを立てさせたり意識させたりして授業を行っている。 ☆教職員が、評価を意識する。ルーブリックを活用するなど、児童に自己評価させる。 ☆学年の発達段階に応じてめあてに対してどのようにふりかえりをすればいいのか指導していきたい。 |
| | 授業において、児童の課題にあったいい指導をし、基礎・基本を定着させることができている。 | B | <ul style="list-style-type: none"> ・児童の評価は高めだが、教師の評価は低く、開きが見られる。 ・読み・書き・計算といった基礎学力に課題のある児童が多く、支援がないと授業についていけない児童もいる。 ・教師は一人一人の児童がどれくらい理解できているかなど学力を見取り、復習や個別指導を行うなど丁寧な指導を行っている。 ☆基礎学力の定着に向け、子どもたちの特性に応じた研修を行いたい。 |
| 生徒指導 | 「八上小学校いじめ防止基本方針」に基づいて「いじめ」の未然防止、早期発見、早期対応を全職員で行っている。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・児童が安心して学習・生活できる居場所づくりに努めている。担任、生徒指導担当を中心に複数の目で児童を見取り、職員会議や生徒指導委員会で児童の情報交換を行っている。 ・いじめ事案に対しては、いじめ対応チームを中心に迅速に対応する体制を整えている。 ☆保護者に対し「いじめアンケート」の考察を伝えるとともに、未然防止・早期発見、早期対応、再発防止について努めていることも伝えていく。 |
| | 児童に考えさせ、児童自身が主体的に取り組む委員会活動や学級活動を行っている。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・クラスルームを活用し、児童が工夫して児童会活動や委員会活動を進めることができた。話し合いや活動のお知らせなどに活用した。 ☆子どもたちの主体的な取り組みとなるように指導者が意識して計画的に進めていく。 |

| | | | |
|------|--|---|---|
| 安全管理 | 子どもたちが安全・安心して学校生活ができるように学習や訓練(交通、引き渡し火災、地震、不審者侵入等)を実施し、子どもたちの防災意識を高めている。 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の時間に指導したり、避難訓練を定期的 に実施したりし、非常災害への備えにつ いて学習した。 ・ 毎月、教職員は複数体制で安全点検を 実施し必要に応じて速やかに修繕した。 また、不要な物を廃棄したり、物の配 置を換えたりしながら、校内の美化に 努めている。 ・ 児童は登下校や学校生活での危険と思 われた事案について話し合う時間をも つことができた。 <p>☆教職員は体制や役割を確認するととも に臨機応変に行動し、子どもたちが緊 張感をもって訓練に臨むよう指導し ていく。</p> <p>☆地域と連携した安全点検や環境整備 を進めていく。</p> |
|------|--|---|---|

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが自律して学習できる学び方(けてぶれ学習)が定着してきている。 ・ 支援を要する児童への対応や個に応じた指導について、よい評価が出ていることから、子どものつまずきに気づき、対応する指導ができていると感じる。 ・ 子どもたちが「わかった」「できた」と思えることでやる気が出てくる。今後も支援を要する児童への対応を大切に学習指導にあたってほしい。そのことが基礎基本の定着にもつながってくるだろう。 |
|---|

(2) 総合的な評価(意見・感想)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童一人一人が目標を持って学習・生活していることは、大変素晴らしいと思う。目標を持つことによって意欲が湧き、取り組める。 ・ コロナ禍でタブレットの長時間使用の悪影響がでているように感じる。肩こり、視力低下など身体症状に出ている。子どもたちの健康面について指導してほしい。また、体力維持のために運動場で遊ぶ機会が増えればいい。 ・ あいさつに課題があるが中学校では挨拶できている。小学校の子どもたちも帰りの挨拶、お店に入るときの挨拶など場に応じて挨拶はできているので、小学校段階では挨拶の良さを感じさせることが大事ではないだろうか。 |
|--|

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

| 分野 | 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価 |
|------|--|
| 学習指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「基礎・基本を定着」のためには、児童一人一人のつまずきを分析し、指導にあたる ことが大切である。 ・ ふるさとを大切にした教育を進めている。次年度は新型コロナウイルス感染症が5類相当 になる予定である。さらに、地域人材を活用した教育を進め、体験を通した子ども たちの心に残る教育をしてほしい。 |
| 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・ スマホの長時間使用と思われる影響を調べるためにも、使用状況アンケートをとり、 八上小学校の子どもたちの実態を把握してほしい。各学年別に具体的な生活調査を行 い、発達段階に応じた課題設定をし、検証する大切さを感じる。 ・ 大人社会においても、休み時間にスマホを見ていて会話する時間が減ってきている。 話し合い活動を通した仲間づくり、健康面での体力づくりに一層取り組んでほしい。 そして、一人一人が大切にされる学校文化を作っていくしてほしい。 |
| 安全管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、安全管理、校舎維持の観点から、高く伸びすぎた松の木を伐採した。校舎 が老朽化している。今後も、PTAや学校運営協議会等、外部の視点を取り入れた 防災安全点検をしていきたい。 ・ 和式トイレが多い。今の時代に合わせてトイレの洋式化に取り組む必要がある。来 年度予算要求している。学校運営協議会と連携して今後もより良い学校環境づくりに 取り組む。 |